

投稿のお勧めと投稿規定

『日中言語研究と日本語教育』には、重要なキーワードが二つあります。一つは、日中言語研究、もう一つは日本語教育です。日中言語研究とは、日本語教育を立脚点とする日本語、中国語、日中両言語の対照研究のことを意味するのに対し、日本語教育とは、中国語母語話者を対象とする日本語教育のことを意味します。これは、この研究誌の中核を成す部分です。

一方、この研究誌はもう一つ重要な使命があります。それは、各関連領域とのインターフェースの構築です。即ち、日本語教育に直接または間接に関わっている研究成果を同じ場で発表してもらい、お互いに刺激しあっていくなかで、日本語教育の研究を更に深めていくことです。これは、この研究誌の周辺を成す部分です。

以上のことをふまえて、次の投稿をお勧めします。

1. 日本語教育に貢献できる日本語の研究、中国語の研究、日中両言語の対照研究
2. 中国語母語話者を対象とする日本語教育の研究
3. 日本語教育に直接または間接に関わる、日本語学の研究、言語学の研究、認知言語学の研究、語用論の研究、教育学の研究、心理学の研究など

この研究誌は、投稿者の資格について特に制限を設けておりません。どなたでも投稿できます。特に若手研究者や大学院博士課程後期課程の院生の投稿を大歓迎です。ただし、独創性があり、なおかつ因果関係をはっきりさせ、論文の基本を守っている未公開のものを条件とします。

また、投稿される際は、以下の点にご留意ください。

1. 投稿原稿は、「論文」のみとします。
2. 使用言語は、日本語とします。
3. 横組みを主体とし、区切り符号は「,」「。」とします。
4. 仕上がり紙面は、横書きで「40字×36行」です。
5. 論文は、10ページ以内とします。
6. ワードソフトの使用を基本とし、製作に費用を要する図版・特殊文字をなるべく避けてください。
7. 要旨とキーワードが必要です。要旨は、日本語と英語の両方をご用意ください。日本語のものが400字以内、英語のものが200ワード以内とします。キーワードは、日本語も英語も5ワード以内とします。
8. 要旨には、「何について論ずるのか」「どのような結論が得られたのか」を明確に書いてください。
9. 英文は、次の内容をご用意ください。
 - (1) 英文のタイトル
 - (2) 英文の要旨
 - (3) 英文のキーワード
 - (4) 投稿者氏名の英文表記
 - (5) 投稿者所属の英訳

以上の英文は、投稿者自身が作成し、ネイティブスピーカーのチェックを経た上で、投稿論文とともに送付してください。

10. 投稿は、電子メールの投稿に限ります。
11. 投稿の際には、著者の氏名（よみかた）、所属、職名（共著の場合は全員）、連絡先住所、電話番号、メールアドレス（共著の場合は代表者1名）、最終学歴を記載した申込用紙もご提出下さい。
12. 投稿の締め切り日は、毎年の5月31日とします。
13. 執筆の要領

(1) 論文内容の配列

- ①題名、
- ②著者（所属）
- ③日本語の要旨
- ④日本語のキーワード
- ⑤本文
- ⑥注
- ⑦参考文献
- ⑧謝辞または付記
- ⑨英文の要旨
- ⑩英文のキーワード

(2) 各項目の執筆要領

- ①題名（文字サイズ10.5ポイント、中央揃え、MS明朝）
- ②著者（所属）（文字サイズ10.5ポイント、中央揃え、MS明朝）
- ③日本語の要旨（文字サイズ9ポイント、MS明朝）
- ④日本語のキーワード（文字サイズ9ポイント、MS明朝）
- ⑤本文（文字サイズ10.5ポイント、MS明朝）
 - a. 見出しの取り方
大見出し 1.（全角、10.5ポイント、MSゴシック）
中見出し 1.1（半角、10.5ポイント、MSゴシック）
小見出し 1.1.1（半角、10.5ポイント、MSゴシック）
 - b. 文中と用例の数字や括弧
数字は一桁の場合、全角、10.5ポイント、フォントCentury、
数字は二桁以上の場合、半角、10.5ポイント、フォントCentury、
括弧は、いずれも全角、10.5ポイント、MS明朝

⑥注

注は脚注（各ページの下に注をつけること）とし、注番号は本文の該当箇所に（右上）肩付き数字で、1 2 3という数字表記を選択し、自動表記させて下さい。

注は、いずれも、全角、9ポイント、MS明朝

⑦参考文献（全角、9ポイント、MS明朝）

- a. 参考文献の配列

日本語の参考文献、A 語の参考文献、B 語の参考文献、英語の参考文献

b. サンプル

寺村秀夫 (1991) 『日本語のシンタクスと意味Ⅲ』くろしお出版.

森山新 (2008) 「認知言語学的観点による日本語の連体修飾研究—連体修飾節・ノを用いた連体修飾を中心に—」『日本学報』第 72 輯.

沈家煊 (1999) “‘在’字句和‘给’字句”《中国语文》第 2 期.

Labov, W. 1972. The transformation of the experience in narrative syntax. In Labov, W. *Language in the inner city: Studies in the black English vernacular*. Philadelphia: University of Pennsylvania Press. 354-400.

頁数を示す場合：

工藤浩 (1982) 「叙法副詞の意味と機能—その記述方法をもとめて—」『国立国語研究所 71 研究報告集 3』, pp.45-92, 秀英出版.

澤田浩子・中川正之 (2004) 「中国語における語順と主題化—主題化とその周辺の概念を中心に—」『主題の対照』pp.19-42, くろしお出版.

袁毓林 (1996) “话题化及相关的语法过程”《中国语文》253, pp.241-254, 中国社会科学出版社.

⑧謝辞または付記 (文字サイズ 9 ポイント、MS 明朝)

⑨英文の要旨 (文字サイズ 9 ポイント、Times New Roman)

⑩英文のキーワード (文字サイズ 9 ポイント、Times New Roman)